

「思考を停止せず、洞察力を磨く1年に」 新年「仕事始めの式」で全教職員へ理事長挨拶

令和3年1月4日、仕事始めにあたり、竹之下理事長より、全職員を対象に、新年の挨拶がありました。本年度は、新型コロナウイルスの感染状況などを踏まえて、仕事始めの式を行わず動画での挨拶となりました。

(以下抜粋)
今年は震災と原発事故から10年という大きな節目の年です。震災以来、私たちは「想定外」という事態を数多く経験しました。従来では想像もつかなかった大規模な災害や、新型コロナウイルス感染症に代表される未知の疾患、大規模な環境破壊など、多くのことが想定外といわれてきました。誰にも未来の事は分かりませんから、想定外であることは否定しません。

しかし、私たちは未来を変えることのできる可能性があります。だからこそ人類は過去と現在について学び、考えることで、少しでも正確に未来を予測し、行動し、プラスなら

ば最大限に、マイナスならば最小限にする努力を重ねてきたのです。

今、何かにつけて想定外というとき、私たちは将来を見通すために考えることを尽くしていたでしょうか。私たちは洞察力を磨くことを怠ってはいなかったでしょうか。

大学運営も同じです。私は1年前のこの場で「変化を進化へ」というメッセージを示しました。私たちには常に考えを尽くすこと、洞察力を磨くことしか、変化を進化に変える手立てはないのです。過去を検証し、現状に最適な答えを導くため、考え続けることが私たちの宿命です。

震災から10年を経て、私たちは復興と同時に、その先に目指す新しい福島と本学の姿を積極的に発信していかなければなりません。深い洞察力によって、これからの10年をどう進化するのか、どのようなビジョンを描くのが私たち一人一人に問われます。福島と本学に求められて



いることは「復興の上は何を築いていくか」です。このことを強く意識した1年にしてください。皆さんの一層の活躍を期待しています。

※挨拶の全文と動画は、ホームページ「学生・教職員の方へ」に掲載しています。

<https://www.fmu.ac.jp/univ/gakuna/i/nenshi20210104.html>



福島県唯一となる助産師養成課程設置構想中 助産師養成課程設置準備室ホームページ開設

助産師養成課程設置準備室は、福島県唯一となる助産師養成課程（別科と大学院の2課程）を令和5年4月に設置するために準備を進めています。そしてこの度、助産師養成課程設置準備室として、新たにホームページ（HP）を開設しました。

助産師養成課程基本構想では、大学別科助産専攻（仮称）1年課程と看護学研究科修士課程助産師養成コース（仮称）2年課程の2つのコースの設置を構想しています。

本学看護学部の助産選択制が令和元年度入学者を最後に廃止されることや県立総合衛生学院助産学科が令和5年3月に閉科となることを踏まえ、看護師3年課程卒業者の進学機会を確保し、助産師不足を解消する、といった目的があることから、福島県の主要事業の一つに位置付けられています。

HPは県民に周知することを目的に

新たに開設したHPは、広く県民に周知することを目的としており、特に中高生や、助産師を目指す看護師等への進路選択の判断材料として、早めに情報を提供し、学生確保を目指します。

今後は入試の概要や新しく建設予定の助産師養成施設、出前講座等の最新情報を随時更新していく予定です。

また、ひとりひとりのキャリアに合わせて、助産師資格取得が可能であることを詳しく紹介していきます。

病院や地域のリーダーを育成

少子高齢社会において、助産師に期待される役割は確実に多様化しています。病院や地域のリーダーとなって活躍する助産師の養成を目指す

本構想について、皆さんぜひHPをご覧ください。スマホやタブレット、パソコンの画面からアクセス可能です。

助産師養成課程設置準備室HP
<https://www.fmu.ac.jp/home/jyosan/>



「福島市新型コロナ緊急警報」を発令 感染拡大防止に向け緊張感を持ち適切な対応と行動を

全教職員、学生各位

福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策を受けた本学の対応・取組について

12月に入り、福島県においては過去最高のペースで感染が拡大しており、特に、福島市においては複数の医療機関でクラスターが発生するなど急速に感染が拡大しています。このような中、12月20日には、福島市と福島市医師会が共同で「福島市新型コロナ緊急警報」を発令し、年末年始における最大限の警戒が呼び掛けられました。これまでと同様に、「3密」の回避、マスクの着用、手指消毒、換気といった基本的な感染防止対策や毎日の健康観察を徹底するとともに、福島県や福島市及び居住する自治体からの要請・情報等をしっかりと確認し、感染拡大防止に向け適切な対応に努めるようお願いいたします。

令和2年12月25日
福島県立医科大学
新型コロナウイルス感染症対策本部本部長
竹之下 誠一

■12月15日本部長メッセージ抜粋

本学における感染拡大防止対策としては、8月28日付け「福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策を受けた8月28日以降の本学の対応・取組について」によることとなりますが、昨今の感染拡大の主な要因は、飲食等の機会によるものと見られることから、感染拡大を食い止め、一日でも早く収束させるため、感染が収束するまでの間、下記取組について特に徹底するよう強く求めます。我々には、県民から福島県における医療の最後の砦として大きな期待が寄せられています。そのことを決して忘れることのないようにしてください。

- | | |
|---|--|
| 1 「3密」の回避、マスクの着用、手指消毒、換気といった基本的な感染防止対策の徹底。 | 4 健康ダイアリーによる毎日の健康観察。発熱または上気道炎の症状がある場合は自宅で療養。 |
| 2 家族以外との飲食（会食も含む）の禁止。 | 5 感染が疑われる場合や接触確認アプリで接触可能性の通知があった場合、PCR検査を受けることになった場合は、所属長（学生は教育研修支援課）への連絡。 |
| 3 スマートフォン利用者の「接触確認アプリ（略称：COCOA）」のインストール。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoo_00138.html | |

「新型コロナウイルス感染症へ臨む」 令和2年度意識改革研修録画映像を期間限定配信

令和2年12月16日（水）に「令和2年度意識改革研修」を全教職員に対して動画視聴形式をメインにハイブリッド方式で実施しました。冒頭、竹之下理事長より「意識改革とは、予断を持たずどのようなことができるのかを考え検討する柔軟な姿勢のもとに、初めて実現できるものだ。不可能と決めつけず福島県内の医療の先頭に立つ医療機関として、withコロナの時代の医療の在り

方についてあらゆる可能性を見出し検討する為に研修会を活用してほしい」と挨拶があり、続いて金光教授（感染制御学講座）より「新型コロナウイルス感染症へ臨む」と題し講義が行われました。

臨むとは、向かい対すること

「感染症」「新型コロナウイルス感染症とは」「新型コロナウイルス感

<https://int-www.fmu.ac.jp/somu/2020ishikikaikaku/> ※学内ネットワークからアクセスしてご視聴ください。

「冬の感染症対策」をテーマに、いごころVol.20を発行

広報コミュニケーション室は令和2年12月14日「広報紙いごころVol.20」を発行しました。

「いごころ」は県民の健康啓発を目的に年に4回発行しており、主なターゲットは県内の高校生です。県内全ての高校を通して約5万人の高校生に配布しています。

今号では「冬の感染症」をテーマに冬の感染症の種類、感染の3要素である「感染源」「感染経路」「感染しやすい人（宿主）」、感染予防対策などについて解説し、「感染しやすいのチェック表」も紹介しております。ぜひ、ご一読ください。

https://www.fmu.ac.jp/univ/daigaku/kouhou/vol1_20.pdf

